

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営 1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>何でもやってあげる事がケアではないという事を前提に、残存能力を低下させないようなケアを目標としている。自宅で過ごしてきた環境により近づけるように、ありのままその人を受け入れ、その人が本来あるべき姿で生活できるようなケアを目標としている。</p>	<p>現在の理念には地域密着型サービスとしての要素が少ないため、地域との関係性を重視した内容に、今後変更をかけていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念と運営方針を正面玄関に掲げており、職員が出勤時に見れるようにしている。また職員には出勤時必ず、理念と運営方針を確認してから苑内に入って仕事に取りかかるよう申し伝えている。ケアに迷った時は、運営方針及び理念を出して、それに沿った方向で考えていくようにしている。</p>	<p>現在の体制ではやや難しい所があるが、「朝の送り時に職員全員で運営方針と理念を合唱する」に取り組みたいと思っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営方針及び理念を御家族に送付して、テレサ苑の考え方を理解してもらうようにしている。また、苑便りにも載せている。</p>	<p>現在の理念を地域との関係性を重視した内容に変更後、再度御家族に内容を理解してもらえよう努めたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>・町内会に加入しており、回覧板等で地域の活動を確認して一緒に参加している。 ・職員には、入居者の付き添い散歩や出勤時、帰宅時等に町内の人に会ったら挨拶をするように申し伝えている。 ・町内の人から、こういう事をやってみたらどうかという提案があり、今後秋にりんごもぎ体験を行う予定である。 ・お盆時期には、お墓に上がったお菓子をテレサ苑に持ってきてくれたり、採れた野菜等を持ってきてくれたりしている。</p>	<p>引き続き、町内の方々との交流を図っていき、グループホームではあるが、ひとつの民家として地域の行事に参加し、入居者の社会参加につながるようにしていきたい。苑だけの人間関係や生活にならないよう、広い視野での生活環境を作っていきたい。町内の方々から、認知症についての質問があるため、今後認知症についての勉強会を開催したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>ある程度の研修を重ねた上で、時期がくれば権利擁護についてはぜひ研修を行いたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>入居者の意見や希望が、職員の中だけで終わってしまふ事のないよう、日頃から入居者の発言や行動に敏感に反応するような能力を全員が身に付ける事ができるようにしていきたい。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>御家族の方が気を使って、面と向って話せない場合を想定して、無名のアンケートなどで御家族の意見を聞いていきたいと考えている。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの職員からのケアが受けられるように、他事業所への異動はなるべくしないようにしているが、人員配置(保持資格等)でやむを得ない場合は、十分な引継ぎに時間をとって、入居者の負担にならないように配慮している。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験等を考慮して、その段階にあった研修を様々行っている。勤務の関係で、研修に参加できない職員には書類や口頭で確認できるようにしている。また、外部研修にも職員が参加して、その内容を他の職員へ伝え、全員がスキルアップを図れるようにしている。</p>		<p>理学療法士や作業療法士による、人間の体のしくみ等を理解して、入居者にも職員にも負担のないケア技術を身に付ける研修を現在検討中である。</p>
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入し、様々なグループホームの情報交換できるようにしている。また、管理者は他事業所に出向く機会を多く持ち、その事業所と意見を交換しあっている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の休憩室は2階にもうけ、休憩中は入居者と距離をおけるようにしている。年に2回デイサービス、グループホーム職員が合同で親睦会を開催している。</p>		<p>違う事業所の方から経験談を語ってもらう機会をもうけたい。(テレサ苑だけの仕事内容しかわからない職員が多いため)</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>施設長が各職員の職能評価を行っており、自分の優れている点と改善点を知ること、更に向上心を持って勤務できるようにしている。資格取得に関しては、会社全体で推奨しており、どうすれば資格取得できるかなど、職員の相談に応じている。職員に気持ちの余裕がなければ、この仕事は出来ないという事を前提に、職員が十分にフレッシュできるような勤務体制にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談があった場合、ほとんどの家族の方は今後の事を不安に思われているため、まずは家族の思いを受止め、親身になって相談を受けるようにしている。また、家族がテレサ苑に希望している事を確認し、テレサ苑で実現可能がどうか話し合っている。入居する本人に関しては、今までと違う環境で生活するリスクを考えて、入居前に何回かの面談を行うようにしている。また、家族が入居を希望されていても、本人が拒否的である場合もあるため、状況によっては、本人と家族の間に入る事もある。</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族に相談内容を話してもらった後に、その内容について冷静に専門家としての提案に努めている。また、必要であれば各関係機関へつなげる役割も果たしている。</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>強制的な入居にならないよう、本人が納得した上での入居に配慮している。そのための役割を家族と共に行っている。また、入居から1ヶ月程度は、集中的な職員からの声かけ等にて安心感を持ってもらえるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>各入居者のそれぞれ得意な分野を活かす事で、職員に手伝ってもらう事(自分の出来ない部分)よりも、自分にも出来る事があるんだという自信のほうが多くなるように配慮している。その人の得意な事や自信のある事に関する声かけをして、職員が入居者から教わる機会を多くするようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑した時は、必ずと言っていいほど入居者が明るく笑顔になる。その事を踏まえ、家族が来苑しやすいように、常に入居者の情報を共有しながら、御家族にお願いする部分はお願ひするなど、協力し合う関係に努めている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の希望になるべく添えるように家族に提案し、希望全てを叶える事が困難であっても、希望により近い妥協点を見出している。また、入居者と家族の関係が切れないように、情報を提供している。最低月1回は顔を出してもらえるように、入居料の支払いは、なるべく来苑して支払ってもらえるようお願いしている。家族来苑時、入居者との関係があまりうまくいっていない場合は、管理者が間に入り会話を進めるよう配慮している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やなじみの人といつでも電話連絡をとれるように、電話を事務室の見やすい場所に置き、必要に応じて対応している。はがきをポストに出す役割を行っている。また、手紙が届いた際はプライバシーに配慮して本人へ手渡している。昔から利用している床屋への送迎を行っている。		入居者1人1人の行きたい場所及び会いたい人を確認して、行けたり会えたりできるような支援に取り組みたい
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が1人で孤立してしまわないよう、入居者同士の関係に配慮している。トラブルがあった際には、職員が介入することで、長引かないよう配慮している。集団生活の中で、その人の性格に合った役割を担ってもらえるように働きかけている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時には、何か相談があればいつでも連絡を下さいと話している。祭りなど行事への参加を呼びかけている。1周忌に顔を出している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に本人・家族との面談を通して、それぞれの思いを確認している。自分の思いを伝えられない方であっても、本人の意思をできるだけ尊重するつもりで探っていく努力をしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に本人・家族との面談を通して、本人のこれまでの状況に関して把握できるよう努めている。また、入居後に新たにわかった本人の生活特性があれば、家族に確認して、本人を知るきっかけを作っている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の生活の中で、その人特有の生活リズム等を把握し、その人に合ったケアに努めている。日々の会話を多くとり、どんな人であるのか理解しようと努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成前に本人・家族に確認し、それぞれの希望や意向をくみとり、それを全てケアプランにのせて実現できるように計画を立てている。 職員側に立った計画ではなく、入居者側に立った計画を作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて見直しを行う際には、職員に現状を確認し、その後計画作成担当者も本人に確認した上で、家族に相談し計画を作成するようにしている。 期間前であっても見直しの必要性が出た場合は、本人・家族に相談、確認しながら計画の変更を検討している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録様式を変更し、ただケアした事のみを記入するだけでなく、入居者の発言や行動などケアに活かされるような具体的な記録内容にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、ショートステイ等の機能はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察にグループホーム周辺の定期的なパトロールをお願いしている。災害時や入居者行方不明時に地域の協力体制を整えている。		
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	これまでは家族の方の協力にて、本人の希望を叶える事が出来ていたため、他のサービスを活用したことはない。		家族の方だけの協力ではなく、入居者の要望に合わせて、様々なサービスを活用していきたい
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しているため、様々な情報を交換できるようになった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人のかかりつけ医を確認し、なるべくそのままのかかりつけ医で引き続き受診できるようにしている。かかりつけ医を変更する際は、事前に本人と家族に確認し、了解をもらった上で、スムーズな移行ができるように配慮している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に精神科の病院があり、認知症に関する相談や助言を仰いでいる。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関との連携が強いため、現在看護資格を保有する職員や訪問看護ステーションの看護師は配置していない。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるリスクを医師や看護師に説明し、なるべく早い退院を目指した入院計画にもらうように努めている。入院後は頻繁に管理者が見舞いし、本人の状況把握に努めている。その際、疑問等があれば医師や看護師に確認している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族とは重度化した際の対応について確認をとっているが、家族の気持ちは揺れ動くため、その都度話し合いを行っている。実際に重度化した場合は、家族や医師・看護師を交えた話し合いで方向性を決めている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した際は、家族にどのように今後生活していくかを確認し、グループホームで対応できる部分は最大限行い、できない部分は協力医療機関と連携をとってすすめていくように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>なるべく自宅に近い状況を作り上げるため、自宅で使用していた物品を持ってきてもらうように家族にお願いしている。また、入居から3ヶ月程度は状態が不安定なため、集中的なケアを目標に取り組んでいる。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の羞恥心に配慮して、排泄等の声がけは耳元で行うよう、職員に徹底的に申し送っている。また、話しかけ方にも十分注意を払っている。ケース記録等は目立たない場所で保管している。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>活動全般において、本人に選択してもらい自己決定できるように配慮している。また、意志表示の出来ない入居者であっても、必ず確認し家族にも相談を行っている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大体の1日の流れは決めているが、全入居者がそれに合わせて活動はしていない。その人のペースを尊重し、無理にグループホームの流れにのせるような事はしていない。入居者から散歩等の希望があれば、その都度対応できるようにしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望する入居者に対して、昔から行っていたなじみの床屋への送迎を行っている。自分で洋服を選べる入居者は自分で決めているが、自分で判断できない入居者には、何枚かの中から選んでもらえるように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に採った野菜等を一緒に下ごしらえしたり、皮むき等は出来る人には行ってもらっている。食事は入居者にとって楽しみのひとつであるため、メニューも豊富に組み合わせたり、珍しいメニューで楽しんでもらえるようにしている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは管理者が預かり、本人が希望する時に手渡して、苑外にある喫煙室で喫煙してもらっている。希望する入居者には、本人の望む食べ物を買ってきている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は定期的なトイレ誘導を実施し、トイレでの排泄を促している。(日中のオムツ使用者なし)1人1人の排泄チェック表があり、排尿や排便を確認している。排泄チェックにて確認し、その人の状態に合わせて、オムツからリハパン、リハパンからパンツ等への切り替えも行っている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日以外は午前・午後どちらでも入れるようにしている。毎日入浴している人もいる。		入浴日以外や寝る前の足浴を検討している。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に居室に戻したり、寝てもらおうような促しはしていない。眠れない入居者に関しては、職員が話し相手になったり、飲み物を提供したりして、その人が自然に眠れるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の性格ややってきた仕事内容に合わせて、得意な分野で活躍できるようにしている。農家で合った人には農作業を、役所勤めの人には人前で発言する機会を作るなど。		


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の了解を得た上で、小銭程度であれば何人かは所持している。自動販売機にてジュースを買っている入居者もいる。管理はできないにしても、見守りで可能と思われる入居者の場合は、病院受診代等の支払いを行ってもらっている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>正面玄関は常に開放しており、いつでも苑外へ出れるようになっている。冬期間以外は、毎月1回は外出している。入居者からの希望があれば、家族と相談しながら検討している。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>入居者から希望があれば、家族と相談しながら検討している。テレサ苑の職員だけで対応できる場合であれば、家族に報告してから実行している。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は事務室に置いてあり、希望する入居者にはいつでも使用できるようになっている。必要に応じて介助も行っている。手紙に関しては、プライバシーに配慮した上で、頼まれた職員がポストへの提出を行っている。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>誰でも気軽に来苑できるよう、正面玄関には張り紙等はない。グループホームが訪問しやすい場所であるよう、来苑者には愛想よく笑顔での挨拶を職員に申し伝えている。職員が来苑者にも顔を知ってもらう事で、信頼関係を築けるようにしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する研修を実施し、決して身体拘束は行わないように徹底している。職員に身体拘束を行わないという誓約書を書いてもらっている。身体拘束をしない誓いを正面玄関に掲げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底する事で、正面玄関は常に開放し、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしが出来るようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間ともに定期的な入居者の安否確認し記録もしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	収集癖のある入居者に対して、ただ回収してしまうのではなく、そのまま置いて置くことで本人にどのような変化をもたらすのかを確認してから対応している。(消毒類や刃物類を除いて)		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための研修を行っており、緊急時に対応できるようにしている。事務室に緊急時の対応マニュアルを飾り、いつでもそれを見て対応できるようにしている。日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。事故発生時は、迅速に事故報告書を作成し、事故原因や今後起こさないような対策を検討している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防で行っている救命救急講習に毎月1名の職員を参加させ、応急処置ができるようにしている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、入居者・職員共に避難訓練を行っている。地域の人達と連携し、災害時にどのような経路で協力を仰ぐのかを明確にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人の想定されるリスクに関しては、家族に丁寧な説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子や食欲・顔色など様々な変化が見られた時は、すぐにバイタル測定し記録をしている。状態によっては迅速な病院受診にて対応している。入居者の変化を見逃さないよう、気付いた事や気になる事があればすぐにリーダーが管理者へ報告するように申し伝えている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース記録に保管している。内服が変更した際は、職員全員がわかるようにケア日誌や業務日誌で申し送っている。その人の状態に合わせて服薬確認を行っている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防体操を毎週曜日に行っている。排泄チェックにて、個々の排便状況を把握し、適切な下剤の服用を行っている。食物繊維を多く含んだ食品をメニューに取り入れるようにしている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その人の状態に合わせて、入居者全員が毎食後の口腔ケアを実施できるような体制を整えている。口腔ケアチェックも記録している。口腔ケア時の声かけ(羞恥心に配慮)に配慮している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食時確認し、食欲が低下している際は、管理者へ報告するように申し伝えている。水分に関しても、その人に合わせた水分補給の促し等を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する取り決めがあり実行している。また、家族から同意を得て全入居者のインフルエンザ予防接種を行っている。また、職員の全員予防接種を行っている。ペーパータオルを使用したり、ハイターでの掃除にて、予防をしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具及び食器類は定期的な消毒を行っている。また、買い物はまとめてせず、こまめにしている。冷蔵庫の中も定期的に確認し、賞味期限等の確認をしている。台所関係の管理方法について取り決めがあり実行している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正面玄関に花を置くことで明るい雰囲気を出している。施設入り口に花壇を設置し、入りやすい雰囲気に努めている。正面玄関は日中は常に開放している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具に関しては、奇抜な色は使用せず、安心感のある色使いに配慮している。調理の際に臭いがホールにいる入居者にも届くように、台所は完全に密閉となっていない。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファー・テレビ・本を置き、入居者がいつでも使用でき、あづましい配置に配慮している。廊下にもイスとテーブルを置き、仲の良い入居者同士が廊下で団楽できるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた物をできるだけ持ち込んでもらえるようにしている。布団・シーツ等の寝具は全て自宅からの持ってきた愛用品を使用している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎食後には換気扇にて換気を行っている。1日に3回、温度と湿度の確認をして、その状況によって空気の入れ替えやストーブの温度の調整等を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物全体が、車イスの方でも使いやすいような作りになっている。また、その人の状態に合わせて、建物の補修や改善をその都度行っている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の発言内容や行動で、その人が何に困っているのか、どうしたいのかを検討し実践するように努めている。実践後、このままの対応でいいのか、対応を変更したほうがいいのか、再度検討して随時行っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地内に野菜畑を2ヶ所作り、入居者が野菜を植えたり収穫できるようになっている。敷地内にベンチを置いて、そこで入居者が涼んだり日光浴ができるようにしている。苑内に低周波を置き、軽度な腰痛や膝痛のある人が対症療法ができるようになっている。</p>		<p>今後は、この低周波を町内の人にも知ってもらい、気軽にグループホームに来てもらって、対症療法ができるような環境を整えたいと考えている。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族や町内の人、デイサービスの利用者等に空き缶を持って来てもらえるように働きかけており、スチール缶に関しては、認知症進行予防に手を使う事が有効であるので、入居者にスチール缶の上ふた部分を缶切りしてもらっている。集めた缶はリサイクルに出しており、そのお金は入居者の外出時のおやつ代に使用したり、テレサ苑と交流のある幼稚園に絵本代として寄付をしている。残存能力を活かし低下させない事を前提に何でもやってあげるのがケアでは無い事を徹底して取り組んでいる。本人の性格を把握し、その人に合った声がけや促しに工夫している。また、身体的に低下しても認知症が重度であっても、その人らしく自由な生活をモットーにその人の心を殺さないケアに取り組んでいる。